



横浜市立万騎が原中学校 学校だより

# 桐の花

令和元年

10月17日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

『目の前の楽より、日々の小さな努力』

校長 中村 雅一

「台風一過の秋晴れ」と、すがすがしい気分になれないのは、15号による被害の復旧が終わらない中、先日の19号の猛威や恐怖、爪痕がここ最近にないものであったからだと思います。我が家は鶴見川から程近くにあり、昔はよく氾濫して床上浸水もありました。町内会の方が木の小舟を出して、家の前を通る光景が今でも思い浮かびます。もう50年以上も前の話ですが、今回、鶴見川が氾濫注意水位を上回り「氾濫注意情報」が発令。程なくして、隣の多摩川の方が氾濫危険水位に達し、「避難勧告（警戒レベル4）」が発令されました。我が家は2階への避難を決めたものの、テレビの台風情報から目が離せず、逐一、スマホに入ってくる防災速報を確認しながら夜を過ごしていました。その夜10時半頃、多摩川の東京都側でついに氾濫、警戒レベル5に。この日の夕刻には震度3の地震まで起きて、「災害列島ニッポン」に恐怖した一日でした。しかし、翌日の報道で、各地の洪水や土砂災害など甚大な被害状況を知り、これまでの常識や想定が及ばない事態であると再認識しました。

この台風の2日前には、東日本大震災の津波で児童・教職員84人が犠牲になった宮城県石巻市立大川小学校の津波訴訟で、遺族勝訴の判決が最高裁で確定しました。津波被害を巡って、学校の事前防災の不備を指摘して市と県に損害賠償を命じる判決です。改めて、学校現場の防災責任の重さを自覚すると共に、学校の防災機能のさらなる強化が求められているものと受け止める必要があります。

同時に、学校の教育システムや制度レベルを超えた、国レベルの対策と意識の変換が必要な時期に来ているように感じます。気象や災害などは、本来、人間の力が及ばないレベルのことで、事前の予報と対策に力を入れるしかありません。しかし、今、海洋の温度上昇などの地球温暖化にともなう、台風やハリケーンが大型化し、構造が変化しているのだとしたら、今後の地球の未来に大きな影響を与えていることとなります。

地球の温暖化は温室効果ガスの95%を占める二酸化炭素が増えすぎることが原因です。私たちは暮らしの中で、たくさん二酸化炭素を増やしています。お風呂を沸かすのにガスを使う、自動車を走らせるのにガソリンを使う、電気自動車であっても、テレビを見ることも、エアコンを使うことも電気を使うことで、二酸化炭素を増やしています。突き詰めれば、快適な暮らしや豊かさをどこまで追い求めるのか、どこまでその競争をして勝者になろうとするのか。目の前の「快樂」に目を奪われると、その後には「不都合な真実」が待っていることは、疑う余地のないことです。

古代ローマ時代を代表する哲学者、エピクテトスの言葉がたいへん示唆に富んでいるので紹介します。

「快樂を遠ざけることで、どれほど君は喜び、自分で自分を讃えることになるかわかるだろう」

なぜ快樂を遠ざけるのかというと、人間はどうしても快樂に傾きがちであり、また快樂にふけるせいで自分の進むべき進路に狂いが生じるからだ、彼は言っています。私たちが苦しみ悩むのは、過度な苦痛や恐怖にさいなまれる時だけではない、快樂ばかり追い求めていると、かえって将来により大きな苦痛を背負い込んでしまう、ということです。楽しいからといって即座にそれを受け入れ楽しむのではなく、「ちょっと待てよ」とあえてその楽しいこととの距離感を保つ冷静な態度が求められるのでしょう。私たちは、それをわかっていながら、つい見て見ぬふりをしてしまいます。だから、彼はあえて現在の小さな苦痛を選択することが、将来における大きな苦痛を回避すると、説いたのだと思います。

美味しいものばかり食べ、運動不足で楽ばかりしていれば、やがて健康を害すでしょう。目標を決めて少しずつ努力を怠らず、苦勞を重ねてようやく大業を達成する喜びは、単なる飲んだり食べたりという感覚的な快樂とは違った経験になります。「やったぞ」「できたぞ」という達成感、大きな自信を生み出すことにもなります。反対に快樂に流されてやるべきことができなかつたことは、後悔につながります。

13日、横浜でラグビー日本代表チームはこのことを証明してくれました。「新しい歴史をつくるために、全ての時間をささげてきた」。これは福岡選手の言葉です。一人ひとりの選手が自分自身に打ち克って、お互いを信じて闘った結果のベスト8という偉業でした。彼らはまだ進化しています。さあ、今度は万騎中生、皆さんが進化していく番です。目の前の楽より、日々の小さな努力を。「第59回 桐花祭」を全校で盛り上げましょう。

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 今年度の実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであること等から、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること。
- (参考)本調査の結果で示されている全国・各都道府県等の平均正答率について、国立教育政策研究所では次のように整理している。
  - ☞ \* 平均正答率 80%以上…相当数の児童生徒ができています。
  - \* 平均正答率 70%未満…課題がある。
- 令和元年度学力・学習状況調査では、すべての教科において知識と活用を一体的に問う問題形式となったため、昨年度まで示していたAB区分がなくなった。

## 2 調査の結果及び分析

### (1) 教科に関する調査 【平均正答率 (%)】

	国語	数学	英語
万騎が原中学校	75	64	62
横浜市	73	60	60
神奈川県	73	59	59
全国	73	60	56

《参考》・学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答数については小数点第1位、正答率については小数点以下を四捨五入した結果を示す。(国立教育政策研究所発表資料より引用)  
・英語に調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計

### ア 国語

#### (7) 良好である事項

##### ○ 【書くこと】

- ☞ 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ (記述式 本校：89.4% 全国：91.2%)
- ☞ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する (選択式 本校：89.8% 全国：78.7%)

#### (4) 課題がある事項

##### ○ 【読むこと】

- ☞ 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える (選択式 本校：64.4%、全国：61.5%)

##### ○ 【国語の特質に関する事項】 ☞ 封筒の書き方を理解して書く (短答式 本校：60.7%、全国：56.8%)

#### (7) 改善の手立て

##### ○ 【国語の特質、読む】

- ☞ 文書の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える指導の工夫 文章の特徴を把握するとともに、これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読むように指導していきます。
- ☞ 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く指導の工夫 毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導の割合を生徒の十題に即して適切に指導するとともに、学習や生活に役立てるようにします。

## イ 数学

### (ア) 良好である事項

- 【数量や図形についての知識・理解】 ⇨ 平行移動の意味を理解している(短答式 本校：89.1%，全国：83.6%) ⇨ 反例の意味を理解している(選択式 本校：81.5%，全国：77.2%)

### (イ) 課題がある事項

- 【数学的な見方・考え方】 ⇨ 特に、関数の問題の正答率が低くなっている(本校：45.3%，全国40.8%) また、記述式の問題においても正答率が低くなっている(本校：52.3%，全国：47.1%)

### (ウ) 改善の手立て

- 【関数】 ⇨ 事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法と数学的に説明する活動の充実 問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動の充実を計ります。

## ウ 英語

### (ア) 良好である事項

- 【言語や文化についての知識・理解】 (本校：71.6%、全国：64.7%)  
⇨ 特に日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる、という問題の正答率は高くなっている

### (イ) 課題がある事項

- 【外国語理解の能力】 (本校：48.4% 全国44.7%) ⇨ まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる、という問題の正答率が低くなっている

### (ウ) 改善の手立て

- 一文一文を聞き取る・読み取るだけでなく、目的・場面・状況等に応じて聞く・読む言語活動を充実させていきます。
- 文法事項等を言語活動の中で理解し定着させる活動の充実を計ります。

## (2) 質問紙調査(抜粋)

	調査項目	質問事項	当てはまる・どちらかと言えば当てはまるを合わせた割合		
			万騎が原	神奈川県	全国
1	学習状況 (言語活動)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか	66	69	73
2	学習指導 改善の取組状況	1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか	80	74	75
3	学習指導 改善の取組状況	1,2年生のときの授業で、自分の考えを発表する機会では、工夫して発表していたか	49	59	56
4	学習時間等	家で、自分で計画を立てて勉強しているか	55	49	50
5	地域との関わり	今住んでいる地域の行事に参加しているか	36	43	51
6	自尊意識	自分にはよいところがあると思うか	69	71	74
7	規範意識	学校の規則を守っているか	94	95	96

\* 教科に関する調査同様、小数点以下を四捨五入した数値で表しています。

## 3 今後の指導の充実に向けて

教科に関する調査について、国語、数学、英語ともに一部課題はありと考えられるものの、全国等の平均正答率との比較からは、学習面における本校生徒の高い実現状況がうかがえます。

ただ、授業中の課題に対して主体的に取り組んでいるが、意見交流や発表する機会では工夫ができていないと考えている生徒が多く、教師の指導や働きかけを改善することによって、対話的で深い学びをさらに向上させられるのではないかと考えられます。また、昨年度同様、自尊意識の低さが気になることです。これは本校の大きな課題であり自己肯定感を高めていけるような取り組みが必要であるといえます。

本調査の結果分析から見えてくる事実と、本校として育成したい生徒像とをあらためて突き合わせ指導の在り方について確認し、今後の具体的な実践の改善に反映させていきます。

# 10月・11月の予定をお知らせします

※予定ですので、変更になる場合もあります。

10 月			11 月		
1	火		1	金	
2	水		2	土	
3	木		3	日	文化の日
4	金	英語検定【3年】	4	月	振替休日
5	土		5	火	
6	日		6	水	個別級宿泊行事(～7日)
7	月		7	木	横浜市学力・学習状況調査【3年】
8	火		8	金	
9	水		9	土	
10	木	保護者進路説明会【3年】	10	日	
11	金	前期終業式	11	月	
12	土		12	火	
13	日		13	水	
14	月	体育の日	14	木	
15	火	後期始業	15	金	後期中間テスト【3年】
16	水		16	土	
17	木	桐花祭	17	日	
18	金	桐花祭	18	月	後期中間テスト【全学年】
19	土		19	火	後期中間テスト【全学年】
20	日		20	水	
21	月	進路相談【3年】	21	木	
22	火	即位礼正殿の儀	22	金	
23	水	進路相談【3年】	23	土	勤労感謝の日
24	木	進路相談【3年】	24	日	
25	金	進路相談【3年】	25	月	
26	土		26	火	音楽交流会
27	日		27	水	
28	月		28	木	性教育講演会【1・2年】
29	火		29	金	
30	水	生徒・保護者進路説明会【2年】	30	土	
31	木				
<b>横浜市学力・学習状況調査【3年】</b> 7日(木) 国語・理科・社会・数学・英語  <b>中間テスト</b> 15日(金) 3年<音楽・技家・保体> 18日(月) 1～3年<美術・英語・理科> 19日(火) 1～3年<国語・社会・数学>			《12月の主な予定》 <b>保護者面談</b> 4日(水)～10日(火)(土日を除く) <b>土曜参観・講演会</b> 14日(土)<代休は25日(水)> <b>12月の最後の授業日は24日(火)</b> <b>1月の最初の授業日は7日(火)</b>		

**10月17日(木)**  
 合唱コンクール  
 1・2校時＝2年  
 3・4校時＝1年  
 5・6校時＝3年



学校カウンセラー

による相談

10月～12月の相談日は10月4日(金)・11日(金)・18日(金)・25日(金)

11月1日(金)・8日(金)・15日(金)・22日(金)<午後>・29日(金)

12月6日(金)・13日(金)・20日(金) です。

相談の予約等は、本校職員または相談室直通電話(391-5891)まで。

